

AI・IoTで軸受検査

スキーリフト常時監視

アイペックなど、新システム

【富山】アイペック（富山市、東出悦子社長、076・438・0808）は、富山県立大学と共同で、スキーリフトの滑車に用いる軸受の検査を人工知能（AI）とIoT（モノのインターネット）を活用して自動判断するシステムの開発に乗り出す。従来、現地に赴いて熟練の検査員が判断していた作業を大幅に省力化する。2020年度の商用化を目指す。

開発するシステムは、滑車を回すモーターや減速機に取り付ける加速度センサーで取得する振動のデータから、軸受の状態を診断する。異常の疑いがあればIoTでセンサーが記録したデータをアイペックのサーバーに転送し、AIで診断する。これで、ほとん

どの異常をAIが自動検知できるが、精密診断でも解析しきれない場合については、検査員が判断する。従来は数年に1回の周期で検査員がスキー場に赴いてリフトの動作音を録音し、それを周波数解析ソフトウェアによって音の波形を示し、検査の熟練者が

それを確認して診断をしていた。新システムは常時検査が可能になり、検査員が現地に移動する手間や動作中のリフトに近づく危険性を減らせる。実用化すれば検査業務の効率化と検査員の安全性向上のため、自らが請け負うリフトの検査に活用すると

もに、外販も検討する。また、その技術で他の検査業務の自動化に活用することも視野に入れている。アイペックは非破壊検査によるインフラやプラントなどの点検業務を手がけており、近年はIoTを活用した技術やサービスの開発に力を入れている。

ほとんどの異常をAIが自動検知できるが、精密診断でも解析しきれない場合については、検査員が判断する。従来は数年に1回の周期で検査員がスキー場に赴いてリフトの動作音を録音し、それを周波数解析ソフトウェアによって音の波形を示し、検査の熟練者が

それを確認して診断をしていた。新システムは常時検査が可能になり、検査員が現地に移動する手間や動作中のリフトに近づく危険性を減らせる。実用化すれば検査業務の効率化と検査員の安全性向上のため、自らが請け負うリフトの検査に活用すると

もに、外販も検討する。また、その技術で他の検査業務の自動化に活用することも視野に入れている。アイペックは非破壊検査によるインフラやプラントなどの点検業務を手がけており、近年はIoTを活用した技術やサービスの開発に力を入れている。

もに、外販も検討する。また、その技術で他の検査業務の自動化に活用することも視野に入れている。アイペックは非破壊検査によるインフラやプラントなどの点検業務を手がけており、近年はIoTを活用した技術やサービスの開発に力を入れている。